

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鹿島市立能古見小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	1 学力向上 基幹調査から分析した児童が身に付けている分野、不十分な分野を再度確認し、次年度につなげ、高めていく方法を模索する必要がある。 2 人権教育 心の教育は学力向上と常にセットにあると考える。児童の育った心を大切にして、それを自信につなげられるよう、対策をとっていく必要がある。 3 コミュニティスクールとして、地域との連携を強化し、地域の物的・人的財産の発掘を行い、体験活動の活性化につなげる。
------------------	--

2 学校教育目標	「かしこく、正しく、たくましく」共に伸びゆく能古見っ子の育成
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	能古見っ子の「学力向上」と「人権意識の向上」
------------	------------------------

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	●学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教師90%以上	・研修の時間を定期的に設け、取組の共通理解と共通実践に取り組む。 ・家庭学習への確実な取組への強化を図る。							学力向上CO
	○特に算数科の授業において、深い学びにつながるような授業づくり	○算数アンケートで「自分の考えを書こうとしている」「分かったことを伝えることができる」児童85%以上 ○学年末たしかめテストで算数科の平均正答率80%以上	・アタックタイムで全員が自分の考えをかけるように指導の工夫をする。 ・充実した学び合いになるように日ごろから自信をもって自分の考えが言えるような学級づくりに努める。							研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級及び個人の「自分のよいところが言える」と思う児童80%以上	・各学年で心のめあてを設定し、毎月振り返る。 ・平和学習や人権集会等の実施 ・道徳科の授業充実を図り、人権意識の向上につなげる。 ・保護者や地域と連携したふるさと体験活動の実施 ・感謝の気持ちを伝える取り組み(暑中見舞いはがきなど)							正しくP
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめアンケート等で、困っているときに相談できる相手がいると答えた児童80%以上	・心のアンケート実施(年6回) ・学校生活(いじめ)アンケートの実施(年2回) ・Q-Uアンケートの実施(年2回) ・アンケートをもとに個別の教育相談を実施 ・教育相談習慣(QUアンケートの後に行う)							正しくP
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・年1回の学校生活アンケートの実施 ・職員間で共通理解を図り、すべての教育活動で頑張っている児童に対して褒めることを意図的に行っていく。							教務
	◎志を立て、自ら目標に向かって努力する子供の育成	◎志を持ち、自分の目標に向かって努力していると回答する児童75%以上	・定期的に学習や学校生活の振り返りを行い、児童一人ひとりの目標の確認とステップアップを図る。 ・すべての教育活動で意図的に頑張る児童を評価する取組を行う。							たくましくP
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・昼休みは全校児童が外遊びをするように、遊び道具を充実させたり、放送で呼びかけたりする。(年間を通して) ・健康に関する情報を「保健便り」で伝え、日々の健康チェックや「歯みがきカレンダー」等の記入を通して基本的健康活動の習慣化を図る。 ・好き嫌いをせず3食食べるように、栄養教諭との授業や、食育月間、給食週間を利用して、食の大切さを呼びかける。							たくましくP
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・外部講師を招聘し、ともに授業に取り組むことで学習の充実を図る。 ・全学級がスポーツチャレンジに取り組み、記録をとり、平均や最高得点等を紹介する。							教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(月45時間、年間360時間を超えない)	・ICTを活用した業務の効率化 ・職員間の情報の共有化 ・定時退勤日の徹底							主な担当者
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実 ○地域との連携	○「個に応じたきめ細やかな指導」「交流学習の充実」 ○「地域人材を活用した取り組みの充実」	○合理的配慮し、特別支援教育に関する専門性が向上した教員が90%以上 ○「学校は、保護者や地域の方と協力して子どもの指導や行事開催に取り組んでいる」と回答した割合80%以上	・巡回相談を全学級行い、実態に応じた指導ができるようにする。 ・職員連絡会や職員研修で定期的に児童についての共通理解を図る。 ・学校運営協議会、関係機関と連携を図り、地域人材リストを作成し、教育課程の中に位置づける。							特別支援CO 教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--